

平成30年度第2回蕨市総合教育会議 議事録

1. 日 時 平成31年2月19日（火） 午後3時～午後4時15分

2. 会 場 市役所4階 第1委員会室

3. 出席者（敬称略）

市 長：頼高 英雄

教育長：松本 隆男

委 員：加藤 正明、飯野 朗子、萩原 敏行、小島 奈津子

事務局：【市長部局】川崎 文也（理事）、佐藤 慎也（総務部長）、根津 賢治（総務部次長兼庁舎建設室長）、有里 友希（政策企画室長）、島田 雅也（政策企画室長補佐）、高木 勇輔（政策企画室主事）

【教育部局】渡部 幸代（教育部長）、杉田 勝弘（教育部次長兼学校教育課長）、田中 昌継（教育総務課長）、松永 祐希（生涯学習スポーツ課長）、加納 克彦（中央公民館長）、小栗 信二（図書館長）、佐藤 直哉（歴史民俗資料館長）、野田 智之（生涯学習スポーツ課長補佐）、星野 尚子（西公民館長）、渡邊 浩介（教育総務課庶務係長）、松永 由美子（学校教育課指導係長）

4. 内 容

1 開会

【佐藤総務部長】

それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。

ただいまから、平成30年度 第2回 蕨市総合教育会議を開会いたします。

本会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第1条の4の規定に基づき、市長と教育委員会を構成員とする会議であり、市長が招集するものとなっております。

2 あいさつ

【佐藤総務部長】

それでは、はじめに頼高市長からごあいさつをお願いいたします。

【頼高市長】

蕨市長の頼高英雄でございます。本日は、「平成30年度第2回蕨市総合教育会議」を開催したところ、委員の皆さまにはお忙しいところご参集いただき、

ありがとうございます。また、松本教育長及び加藤教育長職務代理者をはじめ、教育委員の皆さまにおかれましては、蕨市の教育行政の推進、充実した学校づくり、あるいは生涯学習の推進など、子どもたちの健やかな成長にご尽力いただいておりますことに、市長として心から御礼申し上げます。

さて、新しい年が始まり、早いもので2か月近く経過いたしました。この間、子どもたちや教育にかかわる行事等に参加する機会がありました。

一部について触れますと、体育館で行われるホッケーである、ネオホッケーの全国大会が毎年蕨で開催されており、先日も日本男女ネオホッケー選手権や混成ネオホッケー選手権が行われました。ネオホッケーは、以前はユニホックと呼ばれておりましたが、蕨では早くから活発に取り組まれております。同様に以前より親しまれているフロアボールというものがあり、こうした競技の団体がフロアボール連盟として統合され、残念ながら東京オリンピックの種目としては採用されていないものの、現在、オリンピック種目に採用されるよう取り組みを進めているそうです。そうしたなか、先日、女子のフロアボール世界選手権アジアオセアニア予選がタイで行われました。日本チームは決勝でオーストラリアチームと戦い、延長戦の末に惜敗となりましたが、スイスで開催される世界大会への出場権を得ることができました。実は、女子の日本代表チームには蕨から5人の選手が参加しており、大会の結果などからもご活躍されているのだなと実感したところです。

更に、先週末にはパラリンピックの正式種目であるブラインドサッカーの体験会にも参加いたしました。体験会には、蕨出身の元プロサッカー選手であり、現在、ブラインドサッカー日本代表のゴールキーパーを務める榎本達也選手や、フィールドプレイヤーとして活躍している田中章仁選手にお越しいただき、ワークショップや講演などを通じて、スポーツの推進はもちろん、障害のあるかたがたへの理解や共生社会の推進にとっても、たいへん意義のある体験会でした。特に、子どもは素直であり、選手の皆さんへ「目が見えないの？」などと質問をしながら交流を広げておりましたが、そうした経験から障害への理解を深めるという点でも、とてもよい機会となっております。

最後に、蕨市は4月に市制施行60周年を迎えます。そうしたなか、記念キャッチフレーズの公募を行ったところ、982件の応募があり、先日、小島委員に選考委員としてお世話になりました、選考会議を開催いたしました。今回は、教育委員会の皆様のご尽力で子どもたちにも募集を行い、674人の小・中学生から応募がありました。記念キャッチフレーズとしては採用となりませんが、すばらしい作品を考えたということで、特別優秀賞を含めて2人のお子さんの作品が優秀賞に選ばれました。あらためて、この60周年が子どもたちにとっても、思い出に残る機会になればよいなと思っております。

さて、本会議は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」の改正に伴って平成27年に設置されて、毎年度2回ずつ重要な案件をご審議いただいております。今年度について申し上げますと、第1回会議のなかで「『蕨市いじめのない明るい学校づくり』について」を議題とし、皆さんからたいへん貴重なご意見をいただきました。本日は、第2回目の会議ということで、平成31年度教育事業の概要についてを議題として、学校ICT環境の整備についてや、生涯学習の拠点である中央公民館や西公民館のエレベーター設置などの新年度予算案について触れながら、委員の皆さまには忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

皆さま、どうぞよろしくお願ひいたします。

3 議題

【佐藤総務部長】

ありがとうございました。それでは、規定に基づきまして、会議の議長を、頼高市長にお願いさせていただきます。市長、よろしくお願ひいたします。

(1) 平成31年度教育事業の概要（案）について

【頼高市長】

それでは、次第に沿って平成31年度教育事業の概要（案）について議題とします。事務局から説明をお願いします。

【田中課長】

資料1 ページ「蕨市教育大綱の抜粋」を御覧ください。教育の目標や施策の根本的な方針である大綱は、教育基本法第17条に基づき定めるものとされています。蕨市教育大綱は、平成27年度第1回総合教育会議において、蕨市教育振興計画をもって教育大綱とすることを決定しました。

蕨市教育大綱は基本理念、基本方針、基本目標を骨子としており、蕨市の教育の目指す姿として構成しております。今回説明する、平成31年度教育事業の概要（案）は、蕨市教育大綱を基に、基本目標に掲げる「① 学びあい高めあう学校教育の充実」、「② 生涯学習を支える社会教育の充実」、「③ どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実」の各分野における、新規・拡充事業及び特徴的な事業の13事業となっております。なお、各事業の説明は、各所管課から説明をさせていただきます。

基本目標① 学びあい高めあう学校教育の充実

1 少人数学級推進事業（35人程度学級）

【杉田次長】

予算額は3,270万7,000円です。来年度は6人の教員の配置を予定しております。

国・県において小学校1・2年生の35人学級を実施しておりますが、蕨市は独自に3年生から6年生までの少人数学級を実施しております。低学年からの円滑な引き継ぎを行うとともに、きめ細やかな支援の充実を図るものです。学級編制を少人数化することで、教師が児童一人ひとりに目の行き届いた教育指導を行えることが最大のメリットです。保護者に対しても丁寧な対応が可能となるとともに、学力向上にも大きな成果がでている事業となっております。

2 教育センターの効果的な運用

【杉田次長】

予算額は1,550万円です。教育センターにおいて、教育相談や日本語特別支援、教職員の研修、学校コーディネートなど、効果的な運用を図っていきたいと思っております。

3 ALTを活用した外国語教育

【杉田次長】

予算額は2,586万9,000円です。小・中学校における外国語教育の更なる充実に向け、外国語指導助手であるALTを活用し、外国語指導を実施するものです。

4 コミュニティ・スクールの導入

【杉田次長】

予算額は10万円です。学校運営や学校の課題に対して地域住民などが参画できるよう、コミュニティ・スクールを導入いたします。平成31年度は東小学校・塚越小学校・東中学校の3学校区を1地区としたPTAや学校応援団などの代表者等による学校運営協議会を設立いたします。

5 学校ICT環境の整備

【田中課長】

予算額は6,280万7,000円です。平成31年度の教育情報推進事業として、小学校全校と東中学校のパソコン教室にある端末の更新を含む、学校ICT環境整備事業として、小学校は4,149万8,000円、中学校は2,130万9,000円を計上いたしました。全小学校と東中学校にある端末を固定式のデスクトップ型から、持ち運びのできるタブレット型にリニュー

アルするほか、校務用パソコンと校務支援システム等の更新を予定しております。そのほか、授業を行う教師用にも新たにタブレット端末を導入します。これらのICT環境整備は、2020年度からの新学習指導要領を見据え、実施するものです。

【頼高市長】

それでは、基本目標①について、委員の皆さまよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【飯野委員】

教育センターの効果的な運用について、昨年の夏休みに教師の皆さんを対象にした研修を行ったことがあります。そうしたことが実施できたり、また、外国人児童・生徒への日本語指導を行ったりしていることは、とても良い使い方だと考えるので、今後も外国人児童・生徒の増加が見込まれますが、ますます活用していただきたいと思います。

学校ICT環境の整備については、ある研究データによると電子ブックで読んだ情報は、本の重さや手触りなどを通じた体験がなく、内容の定着・理解がされにくいという結果も出ており、実際に子どもたちの脳に定着させるということは想像以上に難しいのではないかと考えます。理解を深めるツールとしてICTの活用はとても良いと思いますが、難しい部分もあると考えますので、教育センターでの研修なども活用しながら、上手に取り組んでいってほしいと思います。

【萩原委員】

学校ICTの話がありましたが、タブレット端末などを利用するメリットは、例えば昆虫について理解を深める際に、図鑑ではできない、映像による学習や画像を拡大して情報をより手に入れやすくなるなどといった点にあると考えます。一方で、実物に対する体験を通じて獲得される情報は、映像などを通じて手に入れたものと異なり、実際に使える情報だと思っております。こうした点に注意していただきたいとともに、ICTを積極的に取り入れていくなかで、タブレット型のパソコン等をどう利用していくかという技術面にとらわれすぎないように、ICTを活用していく教師の皆さんもどう育成していくのかという点は課題となっていくと考えます。

【小島委員】

A L Tの活用については、学校訪問などを通じてA L Tの授業を視察したこ

とがありますが、想像以上に充実していると思います。2020年度からの新学習指導要領については、保護者の皆さんの間でも特に外国語教育を不安に思うかたがいらっしゃるように感じます。音楽的な要素も取り入れながらリズムをとって話し、外国語を身につけるといことが大事であるといわれておりますが、蕨市の外国語教育のなかではこうした点が取り入れられているようで、テンポの良さや外国のかたの特有のノリに子どもたちが自然になじめているように感じました。今後については、小学生は中学校に入学すると文法等を学ぶようになりますが、そうした点とどのように連携していくのか、教科化のなかで課題となるのではないかと考えるとともに、期待したいと思います。

【頼高市長】

小島委員のご意見について、教育委員会ではどのように考えているのでしょうか。

【松永係長】

小・中学校の連携については力を入れており、小学生を受け入れる中学校では、小学校においてどのような内容を指導しているのか理解を深めるため、昨年度から小・中学校の教員が小学校と中学校の研究授業を視察し、各教育課程の違いを研究・協議するなど、相互理解につながる研修を取り入れております。小学校では現在、外国語に慣れ親しむことが大きな要素となっておりますが、2020年度からの教科化に伴い、どのように評価していくかという点がたいせつになります。また、中学校においては、今後、英語によるスピーチやディスカッションなど、自身の話したいことを外国語により伝える場を設けるなどといったことが重要になるのではないかと考えます。

【加藤委員】

現在の蕨市の教育水準が良くなっている点については、全学年にわたり少人数学級が実施されていることが非常に重要だと感じています。また、子どもたちの成長にあった指導方法の積極的な取り入れも、とても良い影響を与えていると思います。何よりも、先生がたが初任の頃からしっかりと育てていることが大きいのではないかと考えておりますが、更に、効果的なツールの活用なども実施されれば、子どもたちに大きな恩恵があるのではないかと考えます。

【萩原委員】

先ほど外国語教育と対話について話がありましたが、職業柄、教育現場に接する機会があり、子どもたちの対話の内容の必要性が薄く感じることがありま

す。たどたどしくても、自身が考えたことをしっかりと伝えることが大事だと考えます。ALTを活用した外国語教育の充実もちろんですが、子どもたちが物事をしっかりと考えることができ、そして、まずは母国語で考えを伝えられることができるよう、育てていくことが重要だと思います。

【頼高市長】

ALTについてご意見がありました。蕨市では平成30年度にALTを5人から7人に増員しました。現在、2020年度の英語教科化に伴いALTの争奪戦となっている状況のなか、待遇改善を図るなど取り組みを進めてまいりましたが、授業内容などが良くなっているといったご意見をいただき、非常に安心しております。国際交流事業として平成31年度に国際青少年キャンプを蕨市で開催する予定となっておりますが、友好都市のドイツ・リンデン市と、リンデン市の友好都市であるドイツ・マッヘルン市より青少年が来て、蕨の青少年たちとの交流を行うという計画をしております。ドイツの青少年たちは、日常生活のなかで英語がないにもかかわらず、英会話が非常に上手であり、教育の違いがかなり影響しているのだなと感じているとともに、現在は、そうした会話が上達するように取り組みを進めているのかなと感じております。一方で、萩原委員からご意見がありました。国語力を培うとともに英語に慣れるということが大事であると感じております。

少人数学級については、県内でも先進的に取り組みを進めてきた志木市が、教員の確保の難しさから取り組みをやめるということが大きく報道されておりました。教員の確保については一番大きな課題であります。新年度、市では6人の教員を配置する予定とのことですが、多くのかたに受験していただけるよう市の取り組みにおいて工夫している点や、どのように採用に至ったかなどの経過も教えてください。

【杉田次長】

これまで給与の改善などを実施してまいりました。そうしたこともあり、今年は3倍以上の応募が集まりました。また、市ホームページへの掲載や、大学やハローワークにおける案内の掲示など、広く周知を図り、結果的に優秀な人材の採用に至りました。

【頼高市長】

教育センターにつきましては、個々の学校のいわゆる困難な案件について支援していくということが打ち出されていると思いますが、実際の取り組みについて教えてください。

【杉田次長】

統括相談員と主任指導員が配置されておりますが、現状は各校に毎日出向き、学校長とともに必要に応じてさまざまな案件に対応している状況となっております。学校側に有効な取り組みというだけでなく、保護者の皆さんにも安心感を抱いていただける取り組みの一つです。

【頼高市長】

学校ICT環境の整備につきましては、各委員の皆さんと同様の思いを抱いております。学習指導要領との兼ね合いもあり、整備自体はしっかりと実施されると思います。当面においては教える側である教員向けの、ICTを活用するための技術的な研修の実施等が見込まれると思いますが、機器の操作が行えれば教育がしっかりと行えるということではないと考えます。子どもの成長に資する取り組みとしなければならないことを意識しながら、工夫して取り組んでほしいと思います。考えることや想像するということはとても大事なことであり、映像等を通じて結果が分かってしまうデジタル化された教材の使い方しだいでは、考える力や想像力を養うことができないという不安要素も想定されますので、問題意識を持ちながら取り組みを進めてください。将棋棋士で、話題の藤井聡太さんはコンピューター等を使わずに、アナログによる練習を徹底的に行ってきたそうです。特に詰将棋が得意だそうです。頭の中で駒を動かす詰将棋は考える力を養います。そのように力を鍛えた藤井聡太さんが、更にコンピューターを活用して将棋に取り組み、力を磨いているということはまさしくこうした技術の適した使い方だと思います。技術の上手な活用については、しっかりと取り入れていってほしいと思いますが、どのように考えているのでしょうか。

【松永係長】

皆さんのご意見にありましたとおり、ICTは使い方によっては功もあれば罪もあるかと考えられます。教育現場において、ICTの活用により更に充実した教育が行えるであろう場面が見受けられます。ICTの功の面を引き出せるよう、効果的な教員の研修等を実践していきたいと考えております。

【頼高市長】

他にありますか。

それでは基本目標②について説明をお願いします。

基本目標② 生涯学習を支える社会教育の充実

1 公民館エレベーター設置工事

【加納館長】

予算額は2億314万4,000円です。生涯学習の拠点となる公民館等の利用者の利便性を高めるため、中央公民館及び西公民館へのエレベーター設置について、平成30年度の調査・設計を踏まえ、設置工事を実施します。中央公民館につきましては1階集会室付近にスペースがあり、そこに設置を行います。2階部分については談話コーナー近くに降り口があり、乗った際とは逆側の扉が開きます。なお、中ロビーにも着床する形状となっております。西公民館につきましては、中庭に抜ける非常口を出た部分にエレベーターホールを設けて設置する予定です。また、西公民館は空調設備が老朽化で改修の必要があるため、あわせて設備改修を実施いたします。

2 改訂第3次蕨市生涯学習推進計画の策定

【松永課長】

予算額は38万5,000円です。平成27年度から36年度までの計画となっている第3次蕨市生涯学習推進計画が、平成31年度をもちまして策定から5か年経過することから、後期5か年計画を策定し、更なる生涯学習の推進を図ってまいります。

3 わらび学校土曜塾

【松永課長】

予算額は622万9,000円です。財源として県補助金454万円を見込んでおります。わらび学校土曜塾は、平成25年に3校でスタートし、26年に4校が加わり、現在は7校すべての小学校区で実施しており、元教員や大学生等の協力のもと、小学3年生以上の子どもたちの学習習慣の定着や基礎学力の向上を目的としております。

4 音楽によるまちづくり

【松永課長】

予算額は325万円です。音楽によるまちづくり事業は、平成27年度にスタートし、「小・中学校への音楽家の派遣」や「わらび市民音楽祭」などを実施してきました。平成31年度も市民との協働により事業展開をしたいと考えております。特に、市民音楽祭はプロの演奏をはじめ、軽音楽や吹奏楽のコンサートのほか、市民参加の歌謡歌合戦など、音楽を聴く楽しみや出演する楽しみを充実させ、にぎわいを創出できるよう実施したいと考えております。

5 蕨市指定文化財「一本杉塚」の整備

【佐藤館長】

予算額は89万7,000円です。一本杉塚は、昭和45年2月に市の文化財に指定されております。文化財指定時より枯死した状態であり、倒木の危険を懸念し、これまで鉄骨材による補強処置なども実施してきたとともに、今後の管理について検討していたなかで、一本杉塚保存会から整備について要請書が提出されたことから、一本杉や周辺の大木を伐採するとともに、整地を行い、現在敷地内に生えている杉を二代目一本杉として育成し、引き続き、市指定文化財として管理したいと考えております。

6 市民や社会教育関係団体・PTA等を対象とした人権講演会の開催

【松永課長】

予算額は44万5,100円です。例年実施している人権講演会では、高齢者や子どもの人権のほか、インターネットによるいじめや、LGBTをテーマに取りあげてきました。引き続き、差別のない社会を目指し、人権教育の推進を図ってまいります。

【頼高市長】

それでは、基本目標②について、委員の皆さんよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【飯野委員】

音楽によるまちづくりについて市民音楽祭が全市的に実施されたところですが、たいへん活気があり、とても良い取り組みだと思いました。しかし、多くの方が楽しむなか、一部事業に携わった知人が実施にあたって負担を感じ、たいへん苦勞されていたので、個人や教育委員会の皆さんに大きな負担がかからないシステムを構築したほうがよいと考えます。

【頼高市長】

ただいまのご意見について、どのように考えているでしょうか。

【松永課長】

市民音楽祭につきましては、平成29年度より新たな方法での開催になり、まだ2回目の実施でしたので、実施体制やスタッフ数などをはじめ、無理のない実施方法について検討しながら、今後もより良いイベントの開催を目指し、

取り組んでまいりたいと思います。

【萩原委員】

市民音楽祭の実施にあたっては、ノウハウの蓄積の過程にあると思いますが、教育委員会以外の所属への業務の割り振りや、企画をアウトソーシングするなど、実施方法を検討できないものかと考えます。教育委員会は多忙だと思えますが、新たなイベントが次から次に立ち上がり、不安に感じています。

【頼高市長】

基本目標③についても、引き続き説明をお願いします。

基本目標③ どこでもだれもが親しめる生涯スポーツの充実

1 各種イベントやスポーツ教室等の開催

【松永課長】

予算額は443万3,000円です。長年、実績のある市民ロードレース大会や市民水泳大会、体力テスト、ウォーキング大会などを実施するほか、アスリートの指導のもと、サッカー・ラグビー・バレーボール・バスケットボールの4種目を体験できる、ボールゲームフェスタの開催を予定しており、引き続き、市民の健康増進・体力向上を図るとともに、オリンピック・パラリンピックの機運醸成にも取り組んでまいります。

2 スポーツ・レクリエーション関連の情報提供の充実

【松永課長】

予算額は330万1,000円です。市民の皆さんがスポーツ・レクリエーション活動に参加するきっかけづくりとして、市ホームページをはじめ、公共スポーツ予約システムの運用によりスポーツ施設や団体の紹介など、情報提供に努めてまいります。

【頼高市長】

それでは、基本目標③についてや、全体をとおして皆さんよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【松本教育長】

基本目標①から③までにご意見をいただきまして、ありがとうございました。萩市の教育として重要だと考えていることは、子どもたちの健やかな成長に何ができるかという点です。学校に関して申し上げますと教職員の資質の向上が第

一条件であり、特に新任から5年間は県の研修や蕨市独自の研修などを通じて、皆さん大きく力をつけられます。今後も、教育委員会としてできることや、学校長をはじめ、先輩教職員による指導体制の充実をしてみたいと考えます。

また、国の状況が刻々と変化するなか、新学習指導要領の全面実施を控え、今後新たな対応を求められます。一方で、これまで培ってきたものもたいせつにしながら、取り組みを進めてみたいと思います。

教育センターにつきましては、県の副教育長による視察もあり、先進的な取り組みとして一定の評価をいただきましたが、今後も充実をしてみたいと思います。

(2) その他について

【頼高市長】

それでは、その他の議題として、事務局から説明をお願いします。

【有里室長】

その他の議題として、4点の資料についてご報告いたします。

1点目、蕨市市制施行60周年記念キャッチフレーズの決定について説明いたします。蕨市制施行60周年にあたり、記念事業のPR等に活用するキャッチフレーズの募集、選考を行い、その結果「笑顔 希望 ずっとぎゅっと蕨」を蕨市市制施行60周年記念キャッチフレーズとすることと決定いたしました。本キャッチフレーズのもと、4月から1年間にわたり記念事業を展開し、盛り上げてみたいと考えております。なお、キャッチフレーズは昨年10月から11月まで募集を実施し、応募件数982件のうち小・中学生より674件もの応募があり、事務局といたしましてもうれしく思っております。最優秀賞は、市内在住の塩満周平さん作の同キャッチフレーズであります。優秀賞を受賞した2名につきましては市内小学生となりました。北小学校の山野紋寧さん作「小さな街で大きな笑顔、ふれ愛 蕨60年」につきましては、特別優秀賞ということで機会を捉えて活用してみたいと考えております。また、中央小学校の青板花奈さん作「やさしさある かっきある 小さい市だけど夢いっぱい」も優秀賞を受賞いたしました。

2点目、蕨駅西口地区市街地再開発事業の公共公益施設の方針について説明いたします。蕨駅西口地区市街地再開発事業におきましては、蕨の玄関口の再生と魅力づくりを目的に、住宅施設、商業業務施設、公共公益施設による建物の整備や、駅前広場の再整備、蕨駅西口7番街区に連続するプロムナードの整備など、魅力ある空間の整備を一体的に進めていくこととなっております。お示した方針につきましては、公共公益施設の方針をとりまとめたものです。

「にぎわいの創出」や「駅前立地への適性」、「蕨らしさ・まちへの愛着」、「財政負担」などの観点から検討を行い、昨年11月に方針が決定いたしました。資料の内容のうち、1点目の公共公益施設の位置及び床面積につきましては、資料でお示ししたBエリアの再開発建物の3階に位置し、その床面積については、概ね2,000～2,200平方メートルを想定しています。2点目の公共公益施設の内容につきましては、図書館と行政センターとし、図書館は子どもから高齢者まで幅広い市民の皆さんのほか、駅利用者の利用が見込まれ、にぎわいを生み出す効果や、駅前立地の適性があること、また、近い将来に想定される現施設の大規模改修などの財政負担や、長期間の休館に伴う市民への影響を考慮し、総合的に優れていると判断したものです。行政センターにつきましては、市民の皆さんの利用頻度の高い一部業務を取扱う窓口などを整備するものです。今後も、再開発事業の進捗状況にあわせて、図書館のあり方などは教育委員の皆さんにご意見をうかがうこととなるかとは思いますが、よろしくお願い申し上げます。

【根津次長】

3点目、蕨市新庁舎建設基本構想・基本計画（案）について報告します。この構想・計画は、新庁舎の基本理念や規模、機能、建設スケジュールなどをまとめたものです。平成30年度はこれまで、市民アンケートの実施や審議会からの答申を経て案を作成し、ちょうど本日までパブリック・コメントを実施しております。現庁舎概要につきましては、建築年が昭和39年で、延べ床面積が4,695㎡、庁内で勤務する職員数は315人となっております。新庁舎の基本的な考え方、基本理念につきましては、先人が築いてきた歴史・文化を活かしつつ、蕨市が更に飛躍する未来を創造する拠点として、災害に強く、コンパクトでありながらも機能が充実し、だれもが利用しやすい庁舎を目指し、『一歴史・文化を活かし「未来の蕨」を創造—人と環境にやさしく、市民に親しまれ、安全でコンパクトな庁舎』と定めております。こちらの理念につきましては、市内に文化的地域資源が数多く存在することや市庁舎建て替えとなる現在地は、中山道の宿場町として栄えた地域に位置し、周辺には蕨本陣跡や蕨城跡等の文化財などがあることから、定められたものとなっております。新庁舎に求められる役割と機能につきましては、基本的な考え方、基本理念を具現化するため、5つの新庁舎建設の基本方針が立てられております。基本方針1は防災拠点となる安全な庁舎、基本方針2はだれもが利用しやすい庁舎、基本方針3は環境にやさしい庁舎、基本方針4は建設・維持管理コストを抑えたコンパクトな庁舎、基本方針5は市民が親しみやすい庁舎としており、22の機能を掲げています。新庁舎の施設計画につきましては、新庁舎建設地の敷

地面積は3,727㎡ですが、県道蕨停車場線に面するよう敷地の拡張に取り組んでいる状況です。仮設庁舎につきましては、庁舎第2駐車場に仮設庁舎を建設するほか、市民会館の一部などの既存公共施設を活用します。新庁舎の規模につきましては、国の基準に基づき算定した面積は約8,440㎡となりますが、一部機能の兼用利用を検討してコンパクト化を図ることなどで、現庁舎の1.4倍程度となる約6,500㎡と設定します。続いて、新庁舎建設の事業スケジュールにつきましては2019年度から2020年度に新庁舎の基本設計・実施設計を実施し、仮庁舎の建設は2019年度途中から2020年度の前半にかけて行うとともに、その後、現庁舎の解体工事を終え、新庁舎は2023年度までの供用開始を目指すというスケジュールとなっております。概算事業費につきましては、新庁舎の規模を6,500㎡と見込み、市域が狭い本市において、土地の高度利用が図れることから、設計段階において併せて地下駐車場を整備する場合も想定し、38.2億円から48.2億円と見込んでおります。

【有里室長】

4点目、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン後期実現計画（案）の概要について説明します。現在、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン後期実現計画（案）につきましてはパブリック・コメントを実施中ではありますが、「コンパクトシティ蕨」将来ビジョンは2014年に策定したもので、将来構想をはじめとする、10年間の計画となっております。このうち、各分野の施策にかかわる実現計画を前期5年、後期5年で定められており、まちづくりを進めていくものとなっております。今般、前期実現計画の期間が2018年度末で満了することから、現在の社会経済情勢の変化、まちづくりの進展等に対応した後期実現計画を策定する必要があるということで、策定を進めております。なお、計画期間につきましては、平成31年度からの5か年となっております。後期実現計画の策定の視点といたしましては、前期実現計画の体系を基本としつつ、新たな課題、前期実現計画期間中の取り組み等を踏まえて策定を進めておりますが、具体的には防災分野については近年の全国的な災害発生状況を踏まえた対応や市庁舎整備、子育て支援の分野では産前産後も含めた包括的な子育て支援、学校教育の分野では教育センターの活用などによる教育の向上、高齢者支援については超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの構築、市街地整備として蕨駅西口市街地再開発事業の進展、地域コミュニティ・市民活動／国際交流・多文化共生などにつきましては、外国人住民の地域参加や支援、多文化共生の理解促進、市民参画・協働につきましては市民・NPOに加え、民間事業者等も含めた多様な主体との協働などを課題としてあげております。実際の計画の

内容につきましては、重点プロジェクト・分野別計画・「コンパクトシティ蕨」将来ビジョン推進のためという構成となっておりますが、重点プロジェクトにつきましては新たな課題等も踏まえて、前期実現計画から引き続き充実を図ったり、見直しをしたりするとともに、7番目の柱となるプロジェクトとして、計画期間を超えて未来に向けた蕨のまちづくりに重要な「まちの成長と深化を加速するリーディング・プロジェクト」として、蕨駅西口市街地の再開発や市庁舎の整備、超高齢社会に対応した地域包括ケアシステムの構築について、6本の柱とは別に盛り込んでおります。その他、分野別計画につきましても、この間出てきた課題等の見直しを図っております。なお、策定した際には、教育委員の皆さんにはご高覧いただきたく、冊子を送付させていただきます。

【頼高市長】

それでは、ただいまの説明について、皆さんよりご意見・ご質問をお願いしたいと思います。

【一同】

特になし。

【頼高市長】

その他、事務局から何かありますか。

【事務局】

次回の開催時期ですが、10月に開催することを提案いたします。

【頼高市長】

皆さん、よろしいでしょうか。

【一同】

異議なし。

【頼高市長】

それでは、次回は10月に開催いたします。

【事務局】

なお、本日の議事録については、事務局で作成後に委員の皆さんに確認いただいたうえで、要領第6条の規定に基づき、ホームページ等で公開させていただきます。

だく予定です。

【頼高市長】

それでは、予定していた議事は終了したので、進行を事務局にお返しします。

4 閉会

【佐藤総務部長】

ありがとうございました。それでは、本日の会議はこれで全て終了いたしましたので、閉会とさせていただきます。